［JICA基金活用事業］ ルワンダにおける「ふりかけ」を活用した母子栄養改善支援 第１回活動報告渡航

事務局長：大茂竜二
～一般社団法人国際ふりかけ協議会（IFA）・JICA基金活用事業～

（※次回ルワンダ10月渡航予定）



一般社団法人 国際ふりかけ協議会（IFA）は、JICA 基金活用事業の一環として、アフリカ・ルワンダ共和国における母子栄養改善支援プロジェクトを実施しています。去る 2026 年５月 4 日～５月 20 日に、IFA 大茂事務局長とカンボジア支部久保田支部長の二人が現地におもむき第１回目の渡航調査を行いましたので、以下の通り報告いたします。今回の渡航では、現地市場調査、政府機関・国際機関訪問、農村地域の女性グループとの交流、学校訪問、民間魚粉加工施設の視察などを行うと共に、現地食材を用いた「ルワンダ産ふりかけ」試作品の開発・試食会など、多岐にわたる活動を展開いたしました。



1. 現地食文化および市場調査

【キミロンコ市場とヌンガ市場】

キガリ市内最大のキミロンコ市場で、食材、香辛料、穀物、乾燥食材などの流通状況を調査。現地の人々の嗜好や味覚を確認しました。農村部のヌンガ市場では実際に流通されている調味料や乾燥食材、穀物類を調査し、農村部の日常的な嗜好や味覚を確認しました。






2. 農村地域訪問および女性グループとの交流

東部州ルワマガナ郡ムシャセクターで現地女性グループや母子家庭の皆様との交流を行いました。生活状況の聞き取りの中で、現地では、まずは日々の食料をいかに確保するかという根本的な課題に直面していることを感じました。

3.「ルワンダ産ふりかけ」の試作開発

市場調査で得た知見を基に、すべて地元食材・調味料を用いた試作品の開発を現地にて実施。

【使用原材料】魚粉（キブ湖産サンバサ、およびティラピアベースの魚粉）、ピーナッツ、ごまなど

【調味料】トマト系調味料（現地定番調味料「ONGA」等）






4. 魚粉加工施設の視察と連携協議

コンゴ民主共和国との国境に近い西部地域を訪問し、民間企業「Triumvirate」が運営する魚粉加工施設を視察。同施設では、キブ湖で養殖・漁獲されるティラピア等を加工し、魚粉パウダーを製造しており、ルワンダ国内における原料供給および商品化に向けた連携の可能性を確認しました。





5. 政府機関（NCDA）および WFP、現地 JICA ルワンダ事務所との連携協議

今回の調査事業では、JICA ルワンダ事務所との連携のもと、ルワンダ国家子ども発達庁（NCDA）および WFP（世界食糧計画）の関係者と積極的に面談を実施。NCDA が進める栄養支援事業に対し、IFA として技術協力を進めていく方向で合意に達し、また、普及活動の拠点となる「IFA ルワンダ支部」の設立についても前向きな協議が行われました。







6. 地元市役所と学校訪問

ムシャセクターの市役所を訪問し、プロジェクトの内容を説明し、地元ルシシリオ小中学校を訪問し、学校関係者と協議を実施。3,000 人を超える生徒たちから歓迎を受け、「ふりかけ」という新しいアプローチを通じた食育および栄養改善支援への理解と期待を深めていただく機会となりました。





7. 現地試食会の開催と評価

活動の総括として、ムシャセクターの住民約 30 名を対象に、「ルワンダ産ふりかけ」の試食会を開催。身近な食材で開発されたふりかけは現地の皆様に非常に好評で、特に「トマト味」は圧倒的な人気を博し、おかわりを希望する参加者が続出しました。単なる試作品評価に留まらず、現地の伝統的主食との相性や受容性を確認できたことは、今後の普及に向けた大きな足がかりとなりました。

【用意したフレーバー】トマト味、カレー味、バジル味の三種類

【試食用対象食品】白米、ウガリ、イビトジ（調理用バナナ）、かぼちゃなど






8. 今後の展望

本プロジェクトは今後、第２回目の渡航調査を実施し、以下の指針を中心に活動を進めていきます。

〔現地女性グループの自立支援〕

生産体制構築への意識高揚を促し自発的な行動への発展を目指します。

〔学校・地域を通じた継続的な栄養支援〕

学校給食および母子支援プログラムへの導入により継続的活動を目指します。

〔地元産原料を活用した商品開発〕

ティラピアやサンサバ等を活用した商品のバリューチェーン構築を目指します。



〔持続可能な「ルワンダモデル」の構築〕

地域に根差した栄養改善支援体制の確立を進めます。「ふりかけで世界を元気に。」を合言葉に、ルワンダ国家子ども発達庁（NCDA）との協力体制をさらに強化し、ルワンダ国内への「ふりかけ」普及活動を進めてまいります。